



## 2020年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年8月2日

上場会社名 持田製薬株式会社

上場取引所 東

コード番号 4534 URL <http://www.mochida.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 持田 直幸

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 竹田 雅好

TEL 03-3358-7211

四半期報告書提出予定日 2019年8月9日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第1四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	26,488	11.1	4,519	26.7	4,666	25.8	3,305	43.4
2019年3月期第1四半期	29,800	2.7	6,167	3.6	6,286	3.1	5,843	35.3

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 921百万円 (87.1%) 2019年3月期第1四半期 7,169百万円 (44.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	84.25	
2019年3月期第1四半期	147.19	

(注) 当社は、2019年4月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」を算定しております。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第1四半期	156,905	124,263	79.2
2019年3月期	159,019	125,110	78.7

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 124,263百万円 2019年3月期 125,110百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		80.00		90.00	170.00
2020年3月期					
2020年3月期(予想)		40.00		40.00	80.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 当社は、2019年4月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2019年3月期の配当金については当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

### 3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	103,000	6.1	7,700	27.3	8,100	25.9	5,800	31.2	147.85

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P.8'2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年3月期1Q	40,630,000 株	2019年3月期	40,630,000 株
------------	--------------	----------	--------------

期末自己株式数

2020年3月期1Q	1,400,650 株	2019年3月期	1,400,014 株
------------	-------------	----------	-------------

期中平均株式数(四半期累計)

2020年3月期1Q	39,229,520 株	2019年3月期1Q	39,703,359 株
------------	--------------	------------	--------------

(注)当社は、2019年4月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想につきましては、本資料発表時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
3. 補足情報	9
(1) 主要製品の売上高	9
(2) 医薬品等開発状況	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

医薬品業界では、社会保障費財源確保の問題を背景とする薬剤費抑制政策が継続的に推し進められ、また企業間競争も加速しており、引き続き厳しい事業環境にあります。

このような状況下、当第1四半期連結累計期間における当社グループ(当社及び連結子会社、以下同じ)は、事業環境の変化にも対応し持続的に成長し続けるために、利益重視と将来への投資の継続を基本方針とし、「営業力強化による新薬等への注力」「次世代の柱構築のための継続的な投資」「選択と集中による、リソースの戦略的再配分」に重点的に取り組んでまいりました。医薬品関連事業では、循環器、産婦人科、皮膚科、精神科、消化器の重点領域等へリソースを集中し、スペシャリティファーマを目指して、主力製品を中心とした学術情報提供活動を積極的に展開いたしました。また、ヘルスケア事業は、敏感肌用スキンケアのバイオニアとして事業活動を行い、マーケティングの強化に努め市場開拓を図ってまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、医薬品関連事業における後発品使用促進策の影響等により、26,488百万円で前年同期比11.1%の減収となりました。

これを事業別に見ますと、医薬品関連事業では、新薬の抗うつ剤「レキサプロ」、潰瘍性大腸炎治療剤「リアルダ」及び慢性便秘症治療剤「ゲーフィス」等の売上高が伸長しました。2018年11月に販売を開始した慢性便秘症治療剤「モビコール」も寄与しました。長期収載品の高脂血症・閉塞性動脈硬化症治療剤「エパデール」、持続性Ca拮抗降圧剤「アテレック」及び子宮内膜症・子宮筋症治療剤「ディナゲスト」等は、後発品使用促進策の影響等により、また、慢性疼痛・抜歯後疼痛治療剤「トラムセット」も2018年12月に後発品が上市された影響を受けたことにより、それぞれ売上高は前年同期を下回りました。後発品事業は、バイオ後続品「エタネルセプトBS「MA」」、「ディナゲスト」のオーソライズド・ジェネリックの伸長があり、売上高は前年同期を上回りました。また、ロイヤリティ収入等の減少もあり、全体としては25,245百万円で前年同期比11.9%の減収となりました。

ヘルスケア事業では、市場成長は上昇傾向にありますが、競争が激化しております。こうした事業環境の中で、抗真菌成分配合シャンプー・リンス等の「コラーージュフルフルシリーズ」の売上高が堅調に推移し、ヘルスケア事業の売上高は1,243百万円で前年同期比8.6%の増収となりました。

次に当第1四半期連結累計期間の利益面につきましては、医薬品関連事業の売上高減少に伴う売上総利益の減少により、営業利益は4,519百万円で前年同期比26.7%の減益、経常利益は4,666百万円で前年同期比25.8%の減益となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、特別利益の減少等もあり、3,305百万円で前年同期比43.4%の減益となりました。

研究開発の状況につきましては、研究面では、オープンイノベーションの推進を通じた早期開発候補品の導入等により開発パイプラインの充実を図るべく創薬研究活動に取り組んでおります。また、統合失調症治療薬、疼痛治療薬(TRPV1拮抗薬)の導出活動にも積極的に取り組んでおります。

臨床開発面では、株式会社富士薬品と共同開発を行っている痛風・高尿酸血症治療剤「FYU-981」については、同社が製造販売承認申請中です。「ディナゲスト」の月経困難症に対する効能・効果の製造販売承認申請中です。新規高純度EPA製剤「MND-2119」、「リアルダ」の小児適応、「レキサプロ」の小児適応及びファイザー株式会社と共同開発を行っている抗うつ剤「MD-120」(一般名:desvenlafaxine)については、それぞれ臨床第Ⅲ相段階にあります。肺動脈性肺高血圧症治療剤「MD-711」については、臨床第Ⅱ/Ⅲ相段階にあります。また、中国において住友製薬(蘇州)と提携して開発を進めている高トリグリセリド血症治療剤「MND-21」については、臨床第Ⅰ相段階にあります。関節軟骨損傷治療材「dMD-001」については、検証的治験段階にあります。

当第1四半期連結累計期間の研究開発費は、1,979百万円であります。

### (2) 財政状態に関する説明

当社グループの当第1四半期連結会計期間末の総資産は、156,905百万円となり、前連結会計年度末比で2,114百万円減少いたしました。

資産の減少は、主に受取手形及び売掛金が増加しましたが、現金及び預金や投資有価証券が減少したためです。負債の減少は、主にその他の流動負債に含まれる未払費用が増加しましたが、支払手形及び買掛金や賞与引当金が減少したためです。純資産の減少は、主に親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加がありましたが、配当金の支払による利益剰余金の減少や投資有価証券の時価下落によりその他有価証券評価差額金が減少したためです。

(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループを取り巻く事業環境につきましては、今後も厳しい状況が継続すると考えられますが、ほぼ計画に沿った業績で推移しているため、2019年5月13日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	51,032	48,407
受取手形及び売掛金	28,938	31,534
電子記録債権	402	391
有価証券	7,999	7,999
商品及び製品	16,741	16,937
仕掛品	1,406	1,533
原材料及び貯蔵品	6,496	6,824
その他	2,316	2,374
流動資産合計	115,334	116,003
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,402	5,254
機械装置及び運搬具（純額）	1,971	1,885
土地	5,290	5,290
その他（純額）	923	957
有形固定資産合計	13,589	13,389
無形固定資産	372	450
投資その他の資産		
投資有価証券	21,671	18,226
繰延税金資産	2,296	3,238
その他	5,756	5,597
投資その他の資産合計	29,723	27,062
固定資産合計	43,685	40,901
資産合計	159,019	156,905

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,327	11,027
電子記録債務	1,138	1,154
未払法人税等	913	853
賞与引当金	2,459	1,079
その他の引当金	785	700
その他	10,819	12,431
流動負債合計	28,444	27,245
固定負債		
退職給付に係る負債	5,066	5,017
その他	399	378
固定負債合計	5,465	5,396
負債合計	33,909	32,641
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	7,229	7,229
資本剰余金	1,871	1,871
利益剰余金	109,537	111,076
自己株式	△4,870	△4,874
株主資本合計	113,767	115,304
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,277	8,886
退職給付に係る調整累計額	65	72
その他の包括利益累計額合計	11,342	8,959
純資産合計	125,110	124,263
負債純資産合計	159,019	156,905

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月 1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月 1日 至 2019年6月30日)
売上高	29,800	26,488
売上原価	14,099	12,351
売上総利益	15,700	14,137
返品調整引当金繰入額	2	3
差引売上総利益	15,698	14,134
販売費及び一般管理費	9,530	9,614
営業利益	6,167	4,519
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	125	128
その他	37	36
営業外収益合計	163	165
営業外費用		
支払利息	0	—
支払手数料	3	3
為替差損	37	12
その他	2	1
営業外費用合計	44	18
経常利益	6,286	4,666
特別利益		
受取補償金	—	5
受取和解金	1,557	—
特別利益合計	1,557	5
特別損失		
固定資産除売却損	4	1
特別損失合計	4	1
税金等調整前四半期純利益	7,839	4,670
法人税等	1,996	1,365
四半期純利益	5,843	3,305
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,843	3,305



## (四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月 1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月 1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益	5,843	3,305
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,309	△2,390
退職給付に係る調整額	16	7
その他の包括利益合計	1,325	△2,383
四半期包括利益	7,169	921
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,169	921

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

## 3. 補足情報

## (1) 主要製品の売上高

### 主要製品の売上高

(2020年3月期 第1四半期実績)

(単位：億円)

製 品 名	前 期 2019年3月期		当 期 2020年3月期		対前年 同四半期 増減率
	第1四半期 実績	年間 実績	第1四半期 実績	年間 見込	
抗うつ剤 レクサプロ	35	150	42	161	+ 19%
高脂血症・閉塞性動脈硬化症治療剤 エパデール	38	145	34	133	△ 10%
潰瘍性大腸炎治療剤 リアルダ	14	68	21	96	+ 47%
慢性疼痛・抜歯後疼痛治療剤 トラムセット	59	202	21	81	△ 63%
慢性便秘症治療剤 グーフイス	4	13	7	47	+ 78%
持続性Ca拮抗降圧剤 アテレック	14	54	12	42	△ 13%
慢性便秘症治療剤 モビコール	-	3	2	33	-
抗悪性腫瘍剤 ドキシル	7	27	6	29	△ 7%
肺動脈性肺高血圧症治療剤 トレプロスト	4	17	4	16	+ 11%
子宮内膜症・子宮腺筋症治療剤 ディナゲスト	5	18	4	16	△ 13%
血液凝固阻止剤 ヘパリンNa	3	15	3	15	△ 4%
抗ウイルス剤 アラセナ-A	3	12	3	12	△ 7%
肺炎・ショック治療剤 ミラクリッド	2	10	2	10	△ 0%
真菌症治療剤 フロリード	2	10	2	9	+ 8%
尖圭コンジローマ・日光角化症治療剤 ベセルナ	2	10	2	8	+ 5%
後発品	47	197	62	217	+ 32%
スキンケア製品	11	49	12	53	+ 9%

- ・レクサプロは、自社販売と田辺三菱製薬株式会社への販売の合算
- ・グーフイスは、2018年4月より販売を開始
- ・アテレックは、アテディオを含む
- ・モビコールは、2018年11月より販売を開始

## (2) 医薬品等開発状況

## 医薬品等開発状況

## 【医薬品】

開発コード 〈一般名〉 〔製品名〕	開発段階 <sup>1)</sup>	予定適応症	剤型	備考
FYU-981 〈ドチヌラド〉	申請中	痛風・高尿酸血症	経口剤	(株)富士薬品と共同開発 申請:(株)富士薬品
MJR-35 〈ジェノゲスト〉 〔ディナゲスト〕	申請中	月経困難症	経口剤	イエナファーム社(現バイエルAG社のグループ 会社)から導入 自社開発
MD-0901 〈メサラジン〉 〔リアルダ〕	臨床第Ⅲ相	潰瘍性大腸炎 (小児適応)	経口剤	シャイアー・ファーマシューティカルズ・グループ 社(現武田薬品グループ)から導入 自社開発
MND-2119 〈イコサペント酸エチル〉	臨床第Ⅲ相	高脂血症	経口剤	自社開発
MLD-55 〈エスシタロプラムシュウ酸塩〉 〔レキサプロ〕	臨床第Ⅲ相	うつ病・うつ状態 (小児適応)	経口剤	ルンドベック社から導入 自社開発
MD-120 〈desvenlafaxine〉	臨床第Ⅲ相	うつ病・うつ状態	経口剤	ファイザー(株)と共同開発
MD-711 〈トレプロスチニル〉	臨床第Ⅱ/Ⅲ相	肺動脈性肺高血圧症	吸入剤	ユナイテッド・セラピューティクス社から導入 自社開発
MND-21 〈イコサペント酸エチル〉 〔エパデール〕	臨床第Ⅰ相	高トリグリセリド血症	経口剤	開発地域:中国 住友制薬(蘇州)と提携
LBAL 〈アダリムマブ〉	—	関節リウマチ	注射剤	バイオ後続品 LG Chem社から導入 自社開発
RGB-10 〈テリパラチド〉	—	骨粗鬆症	注射剤	バイオ後続品 ゲデオン・リヒター社から導入 自社開発

## 【医療機器】

* dMD-001 〈アルギン酸ナトリウム〉	検証的治験 <sup>2)</sup>	関節軟骨損傷		自社開発
---------------------------	---------------------	--------	--	------

\* 2019年3月期決算短信(2019年5月13日公表)からの変更点

1) バイオ後続品の開発段階については非開示としております

2) 医療機器の開発段階は医薬品とは異なり、第Ⅰ相から第Ⅲ相のような区分はなく、その内容により探索的治験と検証的治験に区分されます